



NEWS RELEASE

2016年1月22日

報道各位

株式会社 TSUTAYA

「TSUTAYA映画ファン賞 2015」受賞作決定！ 日本映画部門『幕が上がる』 外国映画部門『ミッション：インポッシブル／ローグネーション』

全国に TSUTAYA を展開する株式会社 TSUTAYA は、今年 70 周年を迎える毎日映画コンクールの特別協賛企業として、唯一一般の方にご参加いただける賞として“TSUTAYA 映画ファン賞”の投票を実施し、本年の受賞作が決定しましたので、投票結果を発表いたします。今年は 2015 年 11 月 10 日より 12 月 20 日の期間に、「2015 年公開の映画の中で映画ファンが最も“感動した、面白かった”映画作品」の投票を受け付けました。有効投票数 12,582 票の中より、日本映画部門では 1348 票という圧倒的な投票数を獲得した『幕が上がる』、外国映画部門では 306 票を獲得した『ミッション：インポッシブル／ローグネーション』が、TSUTAYA 映画ファン賞 2015 に選出されました。

それぞれ 1 位を受賞した 2 作品については 2016 年 2 月 16 日に開催する第 70 回毎日映画コンクール表彰式にて表彰予定です。また、表彰式に 30 組 60 名をご招待するプレゼント募集を以下サイトにて 1 月 27 日まで行ってまいります。応募はこちら：<http://tsutaya.tsite.jp/feature/movie/eigafan/2015/index>

《TSUTAYA 映画ファン賞 2015 投票結果 —有効投票数 12,582 票—》

日本映画部門		
順位	作品名	総得票数
1	幕が上がる	1,348
2	母と暮らせば	339
3	図書館戦争-THE LAST MISSION-	248
4	映画 ビリギャル	219
5	レインツリーの国	187
6	バクマン。	172
7	バケモノの子	170
8	MOZU劇場版	163
9	海街diary	151
10	HERO	144

外国映画部門		
順位	作品名	総得票数
1	ミッション：インポッシブル／ローグ・ネーション	306
2	マッドマックス 怒りのデス・ロード	252
3	ジュラシック・ワールド	250
4	セッション	215
5	国際市場で会いましょう	191
6	アメリカン・スナイパー	174
7	ターミネーター：新起動／ジェニシス	160
8	ワイルド・スピード SKY MISSION	156
9	スター・ウォーズ／フォースの覚醒	153
10	007 スペクター	148

日本映画部門では 20 代～60 代までの幅広い年代の男女に支持を受けた『幕が上がる』が、堂々の総合 1 位となりました。男女別ランキングでも男性 1 位、女性 2 位という結果になっています。さらにメイキングの『幕が上がる、その前に。彼女たちのひと夏の挑戦』も総合 16 位にランクインするなど、高い支持を得ました。一方、『母と暮らせば』は、10 代で 1 位、20 代～60 代でそれぞれ 2 位を獲得しての総合 2 位となりました。男女別では、男性 1 位が『幕があがる』、女性 1 位が『母と暮らせば』という傾向となりました。

「カルチャー・インフラ」を、つくっていくカンパニー。





外国映画部門では総合 1 位を獲得した『ミッションインポッシブル/ローグネーション』が 10 代～60 代までの年代で 1 位や 2 位となり、年齢問わず注目されました。総合 2 位の『マッドマックス 怒りのデス・ロード』は特に男性の人气が高く、男性ランキングでは 1 位となりました。また、トップ 3 のスタジオ系作品に続き総合 4 位にランクインしたのは、昨年アカデミー賞 3 冠受賞の『セッション』で、30 代で 1 位となりました。

毎日映画コンクール受賞作品と受賞者の発表にあわせ、弊社では“TSUTAYA 映画ファン賞”の『日本映画部門』『外国映画部門』各ランキングトップ 20 を、以下のサイトにて発表しております。投票結果はこちら：<http://tsutaya.tsite.jp/feature/movie/eigafan/2015/interim>

尚、各部門トップ 5 の映画については、年間数百本の映画を観ている TSUTAYA の映画通、洋画・邦画・アジア担当 MD による映画評と総評を記載します。宜しければランキングのご紹介と併せて、ご活用ください。

【日本映画部門】

総評

【邦画 MD:北川】戦後 70 年を迎えた 2015 年、邦画では平和を問いかける作品の公開が相次いだ。今年の毎日映画コンクールで史上初の「監督」「主演」W 受賞したのは、反戦映画を描いた『野火』の塚本晋也監督だ。TSUTAYA 映画ファン賞では、山田洋次監督による『母と暮せば』が戦後の家族の絆を描いて、日本映画部門 2 位にランクインしている。『母と暮せば』を抑えて 1 位受賞となったのは、本広克行監督による青春ドラマ『幕が上がる』です。もクロメンバーが 5 人で挑んだ初主演映画は、あまり映画を見ない層の人气も得て、今回受賞となりました。

■1 位:『幕が上がる』

【邦画 MD:北川】まさに“誰もが楽しめる青春映画” というところが人気を博した要因ではないでしょうか。老若男女、誰と一緒に観ても、それぞれの観点で感動できる作品です。

■2 位:『母と暮せば』

【邦画 MD:北川】山田洋次監督がファンタジーとして描いた、監督ならではのしっとり奇抜ではなく、心に響く作品。原爆の恐怖を、直接的ではなく、その後の生活を通して描かれていて、長く歴史に残ってほしい作品です。

■3 位:『図書館戦争-THE LAST MISSION-』

【邦画 MD:北川】原作ファン納得かつ、ファン層を爆発的に増やした第 1 弾に続き、それを超える人気作で続編神話を壊した第 2 弾。前作ファン必見、更にスケールも恋も「図書館戦ファン」のツボを抑えた作品です。

■4 位:『映画 ビリギャル』

【邦画 MD:北川】若年層だけじゃなく、子供を持つ親世代、シニア世代にもヒット。レンタルも絶好調です。元々書籍で大ヒットをした作品だけあって、見ていてためになり、且つ映画ならではの、感動や笑いも満載です。



■5位:『レインツリーの国』

【邦画 MD:北川】図書館戦争で紹介されている架空の恋愛小説を、実際の小説として刊行。同著者:有川浩原作による書籍の実写化です。まさに王道。涙有り、胸キュン有りの THE ラブストーリーです。

【外国映画部門】

【洋画 MD:城下】『バック・トゥ・ザ・フューチャーPART2』でタイムスリップした先が2015年。そんな年にふさわしく、劇場では体感型4Dシアターのオープンが拡大している。MX4Dで楽しむ『ジュラシック・ワールド』のような迫力ある映画や、強力大ヒットシリーズの新作も目白押し。『ターミネーター:新起動/ジェニシス』『スター・ウォーズ/フォースの覚醒』どれも注目作だが、今回のTSUTAYA映画ファン賞で1位受賞したのは『ミッション:インポッシブル/ローグ・ネイション』だ。一方『セッション』のようなインディペンデント作品がアカデミー賞を受賞し、メイン館で1億の興行収入を突破、レンタル数でも大作系が並ぶ上位に食い込み、10位の快挙を果たしている。(※2014年以降の洋画作品)大ヒットシリーズと小規模でも見応えある作品の公開で、映画の選択幅が充実した今年、新しい世代の映画人口も増え活気づいている。この勢いは来年以降も続きそうだ。

■1位:『ミッション:インポッシブル/ローグ・ネイション』

【洋画 MD:城下】日本でのトム・クルーズの人気はさすがだと、あらためて関心させられた結果ですね。今回は今までのシリーズ作品の中でも特に前作との結びつきが強く、前作を観ているとさらに面白さが増すと思います。

■2位:『マッドマックス 怒りのデス・ロード』

【洋画 MD:城下】近年の中でもアクション最高傑作といわれている本作。この順位は過去のファンだけでなく、初めて観る幅広い層にも受け入れられた結果ではないかと思えます。アクション映画好きな人は必見です。

■3位:『ジュラシック・ワールド』

【洋画 MD:城下】2015年の洋画公開作品は過去大ヒットした人気シリーズの最新作が多く、その象徴となる作品が興行収入No.1となった本作です。公開時に初めて「ジュラシック・パーク」シリーズを観る人も多かったようで、特に10代、20代の男女の方が過去作を多くレンタルされていました。

■4位:『セッション』

【洋画 MD:城下】第87回アカデミー賞3部門受賞し、劇場でも小規模公開でスタートしながら、ロコミで広がり劇場で大ヒットした話題作です。レンタルでは特に20代の方が多く借りられ、スタジオ系作品と同じ位の大ヒットを記録しています。

■5位:『国際市場で逢いましょう』

【アジアMD:落合】韓国歴代第2位の動員を記録した本作。釜山にある“国際市場”を舞台に、激動の時代を生き抜いた主人公の波乱万丈な人生を描いています。時代設定が古い人間ドラマの韓国映画は敬遠されがちでしたが、“家族”への想いはいつの時代でも変わらない、としみじみ感じられる秀逸な作品。



【TSUTAYA 映画ファン賞 2015 概要】

- 正式名称: TSUTAYA 映画ファン賞 2015
- 公式サイト: <http://tsutaya.tsite.jp/feature/movie/eigafan/2015/index>
- 実施期間: 2015年11月10日(火)正午～2015年12月20日(日)23時59分まで
- 投票方法: パソコン及びスマートフォン、携帯電話より投票サイトにアクセス
- 応募資格: 投票サイトへのアクセス環境を持っている方どなたでも
- 投票部門: 「日本映画部門」／「外国映画部門」
- 対象作品: 2015年1月1日から12月31日までに国内で14日間以上、有料で劇場公開された映画
※対象作品の公開日は2014年12月18日から2015年12月17日までとなります。

報道関係からの本件に関するお問い合わせ:

株式会社 TSUTAYA 広報担当 野口・大下 TEL:03-6800-4764

【毎日映画コンクール 概要】

- [名称] 2015年度「第70回毎日映画コンクール」
- [主催] 毎日新聞社、スポーツニッポン新聞社
- [特別後援] カルチュア・コンビニエンス・クラブ グループ(TSUTAYA、TPJ)
- [事業内容] 対象作品から選考委員が各賞を決定する
対象作品:2015年1月1日から12月31日に国内で14日間以上、有料で劇場公開された映画
(ただしドキュメンタリー部門、アニメーション部門については、同期間内に上映された映画、もしくは完成した作品を含む)
各賞:▽作品部門＝日本映画大賞、同優秀賞、外国映画ベストワン賞▽監督賞
▽脚本賞▽俳優部門＝男優主演賞、女優主演賞、男優助演賞、女優助演賞、スポニチグランプリ新人賞、田中絹代賞▽スタッフ部門＝撮影賞、美術賞、音楽賞、録音賞▽ドキュメンタリー映画賞▽アニメーション映画賞、大藤信郎賞▽TSUTAYA 映画ファン賞(日本映画部門、外国映画部門)▽特別賞
- [各賞発表] 2016年1月21日に毎日新聞、スポーツニッポン新聞紙上で発表
- [表彰式] 2016年2月16日(火) ミューザ川崎シンフォニーホール(川崎市幸区)
※全席招待制
※ミューザ川崎内「光のブリッジ」で行うオープニングセレモニーは観覧可
- [ホームページ] <http://mainichi.jp/filmawards/>
- [問い合わせ] 毎日新聞社事業本部 毎日映画コンクール事務局 担当 鈴木、塚本
TEL:03-3212-0187/FAX:03-3284-1604/MAIL:filmawards@mainichi.co.jp

以上